

事務事業マネジメントシート(令和 4年度実績と令和 5年度計画)

令和 5年 5月12日更新

事務事業名		生ごみ処理機器設置補助事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	生活環境の健康			所属部	市民生活部	課長名	上村 祐一郎
	施策	21	廃棄物の抑制とリサイクルの推進			所属課	環境衛生課	担当者名	小野 幸介
	施策の柱	62	ごみの発生抑制とリサイクルの推進			所属班	環境衛生班	(内線)	1144
予算科目		会計一般	款 4	項 2	目 1	事業連番 11475	根拠法令	合志市生ごみ処理機器設置事業補助金交付要綱 合志市ダンボールコンポ	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 4年度で終了 <input type="checkbox"/> 4年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	コンポスターは、ごみ減量化に有効であるため昭和60年度から、また電動式生ごみ処理機は、家庭から排出される生ごみを6分の1~10分の1に軽量化できるため、平成3年度から設置補助を開始した。生ごみ処理容器の購入補助額は購入額の1/2以内、電動式生ごみ処理機は1基につき30,000円、コンポスター・EM容器は1基につき4,000円までを上限としている。ダンボールコンポストは、1世帯当たり年間4基を上限に一式500円、基材のみは350円の購入補助を行っている。コンポスター、EM容器、電動式生ごみ処理機は、補助金交付が5年以上経過後の再購入は補助対象としている。市人口が増加しているため一般家庭から排出されるごみは増加している。
【業務の流れ】	補助金交付申請受付、審査、交付決定通知、支払事務。
【主な予算費目】	役務費(切手代)、負担金補助及び交付金(補助金)
【意見や要望】	住民からは補助金額を引き上げて欲しいとの要望がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 4年度実績(4年度に行った主な活動)(DO)	令和4年度は、コンポスター12基、EM容器1基、電動生ごみ処理機29基、ダンボールコンポスト66基に対し補助金を交付した。	5年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 昨年度同様購入費の1/2以内を補助する。生ごみ処理機の購入予定件数 コンポスター(8基)、EM容器(4基)、電動式(20基)、ダンボールコンポスト(80基)
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由 生ごみ処理機器設置補助件数の増
→ ア! 助成件数		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	市民	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) 世帯数
		→ ア! 世帯数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	生ごみの排出を減らしてもらう	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) 件
		→ ア! 過去5年間の生ごみ処理容器を購入し、助成した件数
*③成果指標設定の理由と 5年度目標値設定の根拠 生ごみ処理容器を購入し、生ごみの排出を減らしてもらうことから、成果指標を「生ごみ処理容器を購入し、助成した件数」とした。ただし、買い替え等もあることから、過去5年間の延べ件数とする。目標値については、過去5年間の実績数にした。広報紙への掲載や住民説明会での制度紹介など、啓発活動を実施する。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	2年度実績(決算)	3年度実績(決算)	4年度目標(当初予算)	4年度実績(決算)	5年度目標(当初予算)	6年度予定	7年度見込	8年度見込
① 活動指標	件	件	111	131	112	108	112	112	112	112
② 対象指標	世帯	世帯	25,204	25,616	25,640	26,122	25,992	26,346	26,952	27,929
③ 成果指標	件	件	496	507	550	518	550	550	550	550
投資入費量	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	565	587	693	657	693	693	693	693
	(A) 事業費計	千円	565	587	693	657	693	693	693	693
(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
人件費	人	人	6	5	7	3	7	7	7	0
延べ業務時間	時間	時間	188	400	300	320	300	300	300	0
(B) 人件費計	千円	千円	741	1,564	1,195	1,217	1,195	1,195	1,195	0
トータルコスト(A)+(B)	千円	千円	1,306	2,151	1,888	1,874	1,888	1,888	1,888	693

事務事業名	生ごみ処理機器設置補助事業	所属部	市民生活部	所属課	環境衛生課
-------	---------------	-----	-------	-----	-------

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は4年度の事後評価、ただし複数年度事業は4年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 4年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 令和4年度単年度の助成件数及び5年間の延べ件数は目標値を下回った。 令和4年度単年度の助成件数が目標値を下回った理由は、補助金額が高いとされる電動式生ごみ処理機の助成件数が増加したこと、ダンボールコンポストの購入補助件数の減少があげられる。 5年間の延べ件数が目標値を下回った理由は、平成30、31年度の申請件数が他年度と比較して非常に少ないことがあげられる。
	② 5年度目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 近年、電動式生ごみ処理機の申請件数が増加している。今後も電動式生ごみ処理機の申請件数の増加が考えられるため、電動式生ごみ処理機への補助件数を制限し、他の生ごみ処理機購入補助の積極的な周知又は、予算の増額を行わなければ全体的な申請件数の増加は難しい。
有効性評価	③ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 生ごみの減量は各家庭の状況に応じた処理方法を選択されているので、多くの世帯で取り組んでもらえるよう普及・啓発することでごみの減量化の促進が出来る。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある⇒【理由】 (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 平成24年度生ごみ処理機器設置補助事業とごみの減量事業(ダンボールコンポスト)を統合した。 類似事業なし。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 補助実績に応じた予算を計上しているため、事業費の削減余地はない。
	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 補助金交付関係に必要な事務と、生ごみ処理機器の周知啓発を行う事務であるため、人件費の削減は困難。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 生ごみを減量化することで、ごみ処理費の軽減ができ、市内の全世帯(事業所を除く)を対象としているため公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ごみ減量ができる補助金交付関係事務のため適正である。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

令和4年度は、コンポスター12基、EM容器1基、電動生ごみ処理機29基、ダンボールコンポスト66基の補助金を交付した。広報、ホームページ等に掲載し周知を図り、ごみ減量化に努めた。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						